

拠点名称：若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現する共創拠点

代表機関	横浜市立大学	プロジェクトリーダー	宮崎智之 横浜市立大学 研究・産学連携推進センター 教授
参画機関	神奈川大学、神奈川県立保健福祉大学、金沢工業大学、慶應義塾大学、滋賀医科大学、中央大学、横浜国立大学、順天堂大学、東邦大学、株式会社アスケイド、ガーミンジャパン株式会社、株式会社講談社、株式会社セガ エクスティー、サスメド株式会社、リアルバーチャル株式会社、株式会社パパゲーノ、株式会社ベネッセコーポレーション、株式会社村田製作所、株式会社DUMSCO、株式会社Malus、VIE株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社アットマーク・ラーニング（明蓬館高等学校）、シスメックス株式会社、一般社団法人 Sail On Japan、特定非営利活動法人 あなたのいばしょ、キリンホールディングス株式会社、FrontAct株式会社、塩野義製薬株式会社、特定非営利活動法人Peer心理教育サポートネットワーク、横浜市、神奈川県		

プロジェクトの概要

若者が持続可能な高いウェルビーイングを実現するためには、まず若者すべてが自分と相手とお互いのところを気にかけるようになることが不可欠です。その上で、自らの心の状態をモニタリングでき、不調に気づくことができるようになり、必要で正しい情報、サービスや支援にすぐアクセスし利用できるような環境を整備する必要があります。本拠点ではその整備を産学官民の共創により実現します。具体的には、生きづらさを感じる若者の心の課題を包括的に研究する新たな学術領域を立ち上げ、得られる知見を基に心理的レジリエンスの獲得を促すコンテンツやサービスを開発し、提供するインタラクティブプラットフォーム（本拠点では「MeeTaa」という名称で運用）を構築します。これを日本国内の生きづらさを感じる若者が広く活用し、医師や企業などと連携して若者が自分の今と未来に関わる“ところ”を大切にす文化を醸成します。

【ターゲット（達成すべき事項）】

- 1) 若者の心を理解するための調査環境整備(指標構築)
- 2) 若者に対するメンタルヘルスケアの整備と効果検証
- 3) 若者フレンドリーなメンタルヘルスケアコンテンツとサービスを中心とした市場の創出と普及

双方向性インタラクションを推進する新” MeeTaa” について

若者が持続可能な高いウェルビーイングを実現するため、自らの心の状態をモニタリングし、不調に気づき、対処に必要な学術的知見や情報、サービスや支援にアクセス・利用できる環境を整備する



■SDGs



拠点名：若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現する共創拠点

場の分断による
孤立/不確実性
(ウイズコロナ)

ビジョン：自分の今と未来に関わる“こころ”を大切にする文化を醸成

若者の多様な
価値観生き方や
働き方の変化

「プロジェクト」
の活動範囲

■ターゲット

1.若者の心を理解する
ための調査環境整備
(指標確立)

2.若者に対するヘルスケア
コンテンツとサービスの
整備と効果検証

3.若者フレンドリーなメンタル
ヘルスケアコンテンツと
サービスを中心とした
市場の創出と普及

■研究開発課題

研究開発課題 1

若者の心の不調を早期支援するために有効な心理指標の開発

指標確立

研究開発課題 2

若者の心の不調を改善するサイバーフィジカルな包括的メンタルヘルスサービスの構築とコンテンツとサービスプログラムの効果検証

介入研究

研究開発課題 3

若者の心の状態を見える化する客観的指標とフィードバックシステムの開発

個人化開発

研究開発課題 4

生きづらさを感じる若者の心に関するデータナレッジの集約・利活用

データ解析・統合

研究開発課題 5

インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) の産業化に資する新エコシステム・市場開発

仮想空間展開

研究開発課題 6

インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) の社会実装に向けた社会受容性の研究開発

ユーザー起点調査

拠点名称：若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現する共創拠点**代表機関：横浜市立大学****プロジェクトリーダー：宮崎智之 (医学群/研究・産学連携推進センター 拠点事業推進部門 部門長 教授)**

研究開発課題1 「若者の心の不調を早期支援するために有効な心理指標の開発」の目標		年度
目標1-1	心の不調を早期発見するために有効な心理指標を開発する	2025
目標1-2	心の不調を早期発見するために有効な心理指標をインタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) に導入するために最終確定する	2026
目標4	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) 参加者を対象としたレジリエンス統合指標と介入基準を策定する	2028
目標5	心の状態のフィードバックシステムを構築する	2028
PoC	学校・行政・産業保健領域でのプログラムを開発し実装する	2029
課題目標	若者の心理特性に着目した一連の研究により得られた成果を、大学生・高校生の教育に活かし、若者が自らの心のケアに意識が向けられるよう多様な教育機関と連携して社会実装を進める	2031
研究開発課題2 「若者の心の不調を改善するサイバーフィジカルな包括的メンタルヘルスサービスの構築とコンテンツとサービスプログラムの効果検証」の目標		年度
目標2	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) 上でメンタルヘルス領域の未解決問題の把握と介入方法の検討を継続的に実施できる臨床研究体制の構築	2024
目標4	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) 参加者を対象としたレジリエンス統合指標と介入基準を策定する	2028
目標5	心の状態のフィードバックシステムを構築する	2028
目標8	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) 上でメタバースを活用したメンタルヘルスサービスの有効性と安全性、信頼性の検証を継続的に実施する	2027
目標9-1	サイバーフィジカルな包括的メンタルヘルスサービスの試験運用を開始する	2025
目標9-2	メタバースを活用した診療を開始する	2030
PoC	学校・行政・産業保健領域でのプログラムを開発し実装する	2029
課題目標	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) にて包括的医療支援サービスを提供することで、医療受診に至る前の若者やその支援者に対して心のケアや精神保健教育を提供することで、国民全体の健康改善に貢献する	2031

研究開発課題3 「若者の心の状態を見える化する客観的指標とフィードバックシステムの開発」の目標		年度
中間目標 3-1	心理的レジリエンス獲得効果を検証するために有効な客観的評価指標を開発する	2025
中間目標 3-2	心理的レジリエンス獲得効果を検証するために有効な客観的評価指標をインタラクティブプラットフォーム(MeeTaa)に導入するために最終確定する	2026
中間目標 4	インタラクティブプラットフォーム(MeeTaa)参加者を対象としたレジリエンス統合指標と介入基準を策定する	2028
中間目標 5	心の状態のフィードバックシステムを構築する	2028
PoC達成目標	学校・行政・産業保健領域でのプログラムを開発し実装する	2029
最終目標 3	日々の活動の様子や声の調子から心に起きつつある変化の兆候を察知し、デジタルデバイス情報とのデータ連携を通して、地球上のあらゆる人々のこことからだの健康に貢献する	2031
研究開発課題4 「生きづらさを感じる若者の心に関するデータナレッジの集約・利活用」の目標		年度
中間目標 7	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) のデジタルトラスト運用規約を策定する	2026
PoC達成目標	学校・行政・産業保健領域でのプログラムを開発し実装する	2029
最終目標 4	拠点で生まれる研究データベースを構築し、産学官民の関係者に対して提供し、新たな学術領域および産業開発の構築を促進する	2031
研究開発課題5 「インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) の産業化に資する新エコシステム・市場開発」の目標		年度
中間目標 6	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) 上に連携するケアコンテンツの開発・提供スキームを策定する	2023
中間目標 10-1	実証検討に移行可能なメタバース仕様を決定する	2024
中間目標 10-2	横浜市でのインタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) の試験運用を開始する	2027
PoC達成目標	学校・行政・産業保健領域でのプログラムを開発し実装する	2029
中間目標 12	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) 上のコンテンツとサービスによる新領域市場500億円超の創出を達成する	2031
最終目標 5	リアルワールドでは生きづらさを感じる若者に対しても、誰も取り残されない全く新しい社会を構築する	2031

研究開発課題 6 「インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) の社会実装に向けた社会受容性の研究開発」の目標		年度
中間目標 11	若者の生きづらさを解消する取り組みを行う研究会を発足し産学官の参加者を集める	2025
中間目標 13	生きづらさを抱える若者のペルソナ像を明確化する	2028
中間目標 14	レジリエンス獲得形成をモデル化する	2025
中間目標 15	生きづらさを抱える若者のレジリエンスの獲得支援を行う	2027
中間目標 16	産学官民プラットフォームを形成する	2025
中間目標 17	社会的な機運醸成を行う	2026
中間目標 18	企業投資の機運醸成を行う	2025
中間目標 19	タッチポイントを設計する	2027
PoC達成目標	学校・行政・産業保健領域でのプログラムを開発し実装する	2029
最終目標 6	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) の社会実装に向けて、ユーザー起点の調査やサービスプロトタイピングを行い、実際に社会に受け入れられる仕組みやサービス開発につなげる	2031
運営本部の目標		年度
中間目標 11	若者の生きづらさを解消する取り組みを行う研究会を発足し産学官の参加者を集める	2025
中間目標 12	インタラクティブプラットフォーム (MeeTaa) 上のコンテンツとサービスによる新領域市場500億円超の創出を達成する	2031

拠点名称：若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現する共創拠点

代表機関：横浜市立大学

プロジェクトリーダー：宮崎智之 (医学群/研究・産学連携推進センター 拠点事業推進部門 部門長 教授)



